

ベテラン社員に聞く! 「私の現場変遷史」

Vol. 2

自分の歴史を振り返ってみると、あんな現場、こんな現場……たくさんの経験が今の自分を作っています。
今回は T さんにこれまでの経験を振り返ってもらいました。
地域の象徴ともなる施設に多く携わり、T さんは今何を思うのでしょうか?

担当：数え切れない!
(おそらく…何十か所があると思います)

絆の秘訣は毎週の飲み会?!



達成感を感じた現場

「釜石市民ホール」

平成29年の現場で、工期は約1年。SRC造の建物で、かなり大きい現場です。下請けをメインに30~40人ほどの人員で挑みました。この現場が印象深いのは、実は現場そのものよりも戸田建設の所長の人柄のおかげ。現場のことはもちろんキチンとするのですが、その後のフォローが手厚かったのです。ほぼ毎週飲み会を開いて、業者同士のコミュニケーションを深めてくれました。こうした対応は、ほかの現場ではなかなかないこと。ほとんどの業者と仲良くなったので、何かお願いしたいことがあるときもお互い頼みやすくなり、助け合って現場が円滑に進みました。今も、当時の下請けさんと現場で会うと仲良くさせてもらっています。



最も大変だった現場

「東日本大震災津波伝承館」

令和元年にオープンした陸前高田市の施設です。こちらも大きな建物で、工期も1年ほど。大変だったのはコンクリートに模様をつける作業です。型枠に45mm幅の杉板を張って、コンクリートに杉板の模様を出すというものでした。ほかの現場でもたまたま模様をつけることはあり、模様を出すことそのものはそれほど難易度が高いものではありません。ただ、45mm幅という細い板を使ったことがなかったので、取り扱いの難しさに苦労しました。相手は杉板ですから、濡れると膨張し、乾くと細くなるので、杉板が濡れたまま作業すると乾いた後に隙間ができてしまいます。薦さんにテントを作ってもらったので雨が掛かることはなかったのですが、それでも天候には細心の注意を払わなければいけません。とにかく、杉板を濡らさないように養生しながら作業しました。



細い杉板のデリケートさに苦悩!

釜石 型枠工

T.M さん



TK plus

Vol.26
2022.11.25発行

プロフィール

入社▶▶平成27年7月

勤続年数▶▶7年

出身地▶▶岩手県釜石市

前職▶▶木造大工

今後の意気込み

現場は常に勉強。より良い方法はないか、画期的な方法はないか、いつも考えながら作業に当たっています。思うようにいい方法を編み出せてはいるわけではありませんが、さらに上を目指しこれからもチャレンジを続けていきたいと思っています。



現在担当している現場

「SMC株式会社遠野工場」

工場の外構工事を担当しています。工期は終盤に差し掛かっているのですが、突貫工事のような面もあり都度対応しているところです。意外と難しい型枠工事もあるので、最後までしっかり完遂していきたいと思っています。



これまでの現場を振り返って

力を合わせ、ともに頑張ろう!

改めて、「どの現場も大変だったな」と感じています。ただ、現場は私1人で進めているわけではなく、皆の協力があって成り立っているもの。1人の力は本当に小さいものですから、協力しなければできない現場もできません。もちろん現場を仕切る人間は必要ですが、誰が偉いとか偉くないということではなく、自分も含めて平等に仕事ができればいいと思います。一人ひとり、全員が大事!常にそういう心がけて現場に臨んでいます。



新入社員の**今**

入社当初は学生気分が抜けきれないところもあったという H さん。しかし9月末に入った大規模現場では、真剣な眼差しで取り組むオトナの世界に圧倒されつつ学びも多かったようです。今後も大勢の職人と触れ合い、さらなる飛躍を期待しています!



本社 **H.Y** さん

担当業務について

コンクリート型枠施工として修練中

元請業者から設計図を受け取った後職長が必要なパーツ数を計算し、型枠パーツの加工指示が降りてきます。そのタイミングで盛岡の加工場を訪れ加工し、現場前の準備を済ませます。現場作業が入らなければ、自分の担当しない現場分についても加工。今は実際に現場で学ぶ機会をいただけており、加工場での作業よりも現場に行くことが多いです。



最も成長を感じたこと

9回目の注意まで言い訳を続けながら、10回目にして改心を

自身で感じる大きな成長は、「社会人としてあるべき姿」をやっと意識できたことです。入社当初は学生の延長線上にあり、働くことへのモチベーションを上げられませんでした。そのため上司からは何度となく注意を受けるも、9回という回数を重ねてもまだ自身では無反省。朝から晩まで体を酷使することにも慣れず、仕事へのやる気もどんどん低迷して注意10回目のタイミングで上司へ相談を……。そのときに上司から今後について家族とも相談するように促されました。家族からは実家に帰ることを許されましたが、その優しさを無下にできないと思い、今一度



頑張ろうと立ち直ることができました。9回目までは恥ずかしながら、仕事への不満を言い訳に心に留めることができなかったのだと思います。

最も印象的なエピソード

100人ほどが関わる大規模な現場で感じたオトナたちの真剣さと緊張感

9月末に鉄筋業者や足場を組む業者など他社が参画する大規模な現場に、私も勉強も兼ねて入らせていただく機会がありました。今まで経験した現場は多くても50人規模でしたが、経験を重ねた方々が真剣な眼差しで取り組む姿を目の当たりに。これまでの私は学生気分が抜けられない部分もありましたが生半かな気持ちでは駄目だと思いました。何もできないかもしれないけれど自分なりに頑張っただけで帰ろうと感じた、心に残る現場です。特に30m以上の高所で作業されている方からは注意喚起の声が飛び交い、肌身で感じる緊張感がありました。

今後の目標

「多田工務店一の筋肉ある職長になる!」

面接でも伝えられなかったこととして、ガリガリな私でも筋肉を付けられると思いたい大工を希望したところもあります。筋トレは高校時代から続けており、タンパク質の摂取にも努めてきました。しかし今は激務で痩せるばかりのため、たくさん食べて筋肉をつけながら元気に仕事に励みたいと思います。



TK plus
vol.26
2022年11月25日発行